

「大学生まちづくりチャレンジ」を通じての地域活性化 －表町商店街でのクリスマスイルミネーションとイベント－

An Undergraduate Community Development Challenge Project for Local Activation: Christmas Illumination and Other Events in the Omotecho Commercial Area

(2018年3月31日受理)

佐々木 公 之

Kimiyuki Sasaki

Key words : 表町商店街, 地域活性化, フィールドワーク, 課題解決型学習, PBL

概 要

本稿は、岡山市補助金事業である「平成29年度 大学生まちづくりチャレンジ事業（以下、本プロジェクト）」についての報告である。平成29年12月、岡山市紙屋町（表町商店街）にて「クリスマスイルミネーション、クリスマスイベント」を実施した。本稿では、その内容の紹介に加えて、両イベントに参加した学生・生徒（大学生・専門学校生・高校生）らを対象に実施したアンケートの結果とコメントより、本プロジェクトの成果と教育効果について考察する。

1. 本プロジェクト実施の背景

1.1 商店街の現状

商店街は、戦後復興期から高度成長期にかけて「町の顔」として、また、地域コミュニティを形成する「場」として地域に貢献してきた。1960年代からは百貨店の著しい成長により、地域内において商店街は百貨店との競合となった【1】。しかしながら、1998年に成立した「まちづくり三法¹」による大規模店の出店緩和、モータリゼーションの進展、さらにはIT技術の発展によるEC市場拡大など、商店街を取り巻く環境はこの20年で激変した経緯がある【3】。中小企業庁の実施した実態調査（2012年度）によれば、商店街の最近の景況について「繁盛している」商店街は1.0%、「衰退する恐れがある・衰退している」商店街が76.2%となっており、一部の商店街を除き、全国的に商店街が厳しい状況下にあることが分か

る【4】。

無論、岡山市の商店街も例外ではない。平成27年12月岡山市・岡山商工会議所・岡山大学が、岡山市中心市街地商店街246店舗を対象に実施したアンケート調査によれば、5～6年前と比べた景況感では、「繁盛している」との回答が6.2%、「衰退している」とした回答が39.9%となっている【5】。

1.2 本プロジェクト参画のきっかけ

本プロジェクトは、中国学園大学（以下、本学）の理事であり、表町商店街に本社を構える、(株) トミヤコーポレーション（以下、T社）古市会長（以下、F会長）からの課題解決の依頼であった。F会長は、「国際教養学部は、1年次必修授業である『トップリーダー講義』を通じて『若者離れが進む表町商店街に、若者たちを呼び込んで欲しい』と求められていた。本プロジェクト

¹まちづくり三法は、大規模小売店舗の出店にあたり地元中小小売業者との商業調整を行ってきた「大規模小売店舗における小売業の事業活動の調整に関する法律」（大店法）を、規制緩和の一環として平成12年に廃止。替わって平成10年～平成12年「大規模小売

店舗立地法」（大店立地法）、「中心市街地における市街地の整備改善と商業等の活性化の一体的推進に関する法律」（中心市街地活性化法）、「改正都市計画法」の3つで形成され、従来の商業調整に替わる新たな枠組みへと転換。【2】

に参画した学生（3名）は、F会長の講義を通じて、衰退化する老舗の商店街を憂いており、機会があれば、学生による地域活性化のプロジェクトを行いたいと自ら志願していた。特に、リーダーを務めた学生N（3年生）は、大学入学時より地域活性化に興味を抱いており、2年次、ゼミやボランティア活動を通じて地域活性化についての研究活動を行ってきた。

1.3 PBL（課題解決型学習）を通じての学生の成長と地域活性化

PBL（Project-Based Learning, 課題解決型学習）は、地域社会と連携した課外活動や少人数グループワーク等を通じ、様々なビジネス課題の解決提案・プレゼン等を行う教育手法であり、近年では多くの大学がビジネス実務教育の一環として取り入れている。大学生が、実際に地域が抱える課題に対して自由な発想で企画提案を行い、地域と関わり何らかの解決提案を行うことで地域活性化に結び付き、また、学生への教育効果に結び付くと考えられている。今回、F会長の要望であった「表町商店街に、若者たちを呼び込む」を課題設定し、課題解決を中国学園大学国際教養学部課題解決型ゼミ（佐々木ゼミ）として取り組むこととした。また、交通費などの活動費の負担を軽減するため、「大学生まちづくりチャレンジ事業」（後述、詳細説明）を通じて参画することにした。

2. 本プロジェクトの実施場所

2.1 岡山市表町商店街

今回、プロジェクトを実施した場所は、T社が本社を置く岡山市表町商店街である。表町商店街は、岡山駅より岡山城方面に向かって歩き、徒歩15分の商店街である【図1参照】。表町商店街は、1.4kmにわたって店舗が並び、上之町、中之町、下之町、栄町、紙屋町、千日前、西大寺町、新西大寺の8つのアーケード商店街から構成されている【6】。

表町商店街の歴史は深く、戦国時代も末期の天正元年（1573年）に、宇喜多直家がこの地に本拠を移し、岡山城と城下町の建設を進めたことに始まるとされている。慶長2年（1597年）岡山城天守閣を完成され、並行して、



図1 表町商店街(出典)Google Map

備前国内から多くの商人・職人を呼び集めて、城下町に住ませた。このとき城下町内の山陽道沿いに形成された商人町が、現在の表町商店街といわれる。下之町と紙屋町には、参勤交代の大名が宿泊する本陣が置かれ、岡山と各地を結ぶ主要な道路（往来）はすべて栄町と紙屋町を結ぶ千阿弥橋を起点に発せられており、表町商店街は歴史的にも岡山の中心地であった【写真1参照】【7】。

しかし、郊外型店舗の出店、インターネット通販の躍進、また、2014年、岡山駅直結型の大型ショッピングセンター「イオンモール岡山」の営業開始など表町商店街を取り巻く環境は厳しさを増し、年々、人通りが減り、場所によっては、約50年前に比べ半分以下の地点もあるされている【8】。さらに、中之町、千日前、西大寺町の顧客層は、80%が50歳以上と若者の顧客の取り込みに苦戦しているのが現状である【9】。

また、平成28年10月実施の中国学園大学国際教養学部（以下、本学部）1年生（25名）へのアンケートによれば、表町行ったことがないが7割を超え、5年以内に行った



写真1 表町商店街

ことのある学生も1名と大学生の認知不足など、若者離れが進んでいると考えられる。

3. 大学生まちづくりチャレンジ事業

3.1 大学生まちづくりチャレンジ事業とは

本プロジェクトの実施に当たっては、2017年度に始まった「大学生まちづくりチャレンジ事業」補助金を申請し採択された。「大学生まちづくりチャレンジ事業」の目的は以下のとおりである。

学生をはじめ若者の存在は地域に活力をもたらしています。地域づくりの次代を担う人材が地域に定着し、活躍できる環境づくりを進めていく必要があります。岡山市は、その一環として、大学生が地域や企業、NPO等と協働して取り組む地域における活動に対し補助金を交付し支援する「大学生まちづくりチャレンジ事業」を実施します。(岡山市)

補助対象は、岡山市内の大学、大学院及び短期大学の

教職員を代表者とした参加学生3名以上で構成されている団体（グループ）で、岡山市内における地域課題の解決や地域活性化を目的として、行政機関、企業、NPO及び住民自治組織等との協働での活動が補助金の対象となっている。

3.2 本プロジェクトの実施内容

F会長との協議の結果、岡山市表町商店街のアーケード商店街の一つである、紙屋町商店街にて、12月クリスマスイルミネーション（Christmas Illumination以下、CI）、クリスマスイベント（Christmas Event以下、CE）を実施し、PBLの課題である「表町に若者を呼び込む」の課題解決を行うことにした。また、PBLとして、教育効果を高めるため、企画内容等については、極力、教員は口を挟まず、学生の自主性とアイデアを尊重することにした。

3.3 本プロジェクトの事業計画書

岡山市へ提出した本プロジェクトにおける事業計画書は表1の通りである。

表1 「大学生まちづくりチャレンジ事業」事業計画書

項目	詳細
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年末のクリスマスシーズン向けに、若者（大学生・専門学校生など）が表町に足を運び、昔の賑わいを取り戻すと共に、表町の文化・歴史を認識してもらうような取組みを学生主導で企画し実施する。 【例】イルミネーション、イベント、チラシ、広報（SNS）など
活動に期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生がまちづくりを体験することでの地域（商店街等の現状等）の気づきと課題解決による社会人基礎力の向上 ・イルミネーション、イベント、企画打合せ等を通じて表町の賑わい ・表町×大学生（若者）での話題性とまちの活性化
参加者の成長目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーション等を企画することで社会人基礎力が向上すると考えられる。 ・活動を通じて、学生が企業訪問し、イベントの告知やスポンサー（寄付等）をお願いすることで、実行力、計画力、規律性が成長すると考えられる。また、他大学などの学生達と企画することで、主体性、想像力、働きかけ力、チームで働く力などが成長すると予測される。 ・この活動を通じて、学生達が、仲間たちと企画・実行する楽しさと難しさ、また、表町の現状や歴史などを勉強することで郷土への愛着が深まるものと考えられる。 ・社会人基礎力のルーブリックを作成し、プロジェクトの開始前と終了後にて成長度合いを数値化し分析する

新規性・チャレンジ性	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体性，働きかけ力，発信力に重点を置く。 ・学生自らが企画し，本学の学生だけでなく他大学の学生や若者，また，SNS等を活用し若者独自の情報発信を行うことに重点を置く。 ・スタート時は，参加学生3名だが，学生自らが，他大学・専門学校などの学生に声掛けを行い，ボランティア参加者を増やしてく
活動の今後の展望（継続性・将来性）	<ul style="list-style-type: none"> ・12月には，大学生・若者が創ったイルミネーションが見えると言われるように，毎年の風物詩になるように取組みを行う。また，今回の取組みで，経済界と若者との交流を活性化させて，表町発の学生ベンチャー起業家の輩出を目指す。

3.4 活動の概要

時系列での実施内容は表2の通りである。

表2 本学学生による具体的な実施内容

実施日	取組み内容等
平成29年4～5月	T社会長と本事業の申請内容について打合せ
平成29年6月下旬	本事業の採択
平成29年7月	CIとCEの調査・企画
平成29年8～9月	企画のブラッシュアップとボランティアと協力団体の募集活動
平成29年10～11月	CI制作
平成29年12月3日	CI点灯式（点灯期間：12月3日～12月25日）
平成29年12月21日	高松丸亀町商店街視察
平成29年12月23日	CE実施
平成30年1月	報告書作成とプレゼンテーション準備
平成30年2月14日	「大学生まちづくりチャレンジ事業」活動報告会

3.4 具体的な活動内容

（1）F会長との本事業の打合せ（平成29年4～5月）

学生としての感性を生かして取組むことを要望される。本事業を取組む場所として，平成29年10月オープン予定の「岡山市表町紙屋町商店街Cultural Maison KOTYAE」を中心に取組むことを確認した。

12月のクリスマスシーズンに，CIを常設することで商店街への集客を増やし，若者がInstagram, FacebookなどのSNSにて投稿してもらえる「インスタ映え」を意識したイルミネーション制作を行うことを決定した。また，

12月23日（土）大学生だけでなく，高校生などのさらなる若年層を表町商店街に呼び込むことを目的に，CEを開催することとした【写真2参照】。



写真2 F会長との企画会議

（2）ボランティアスタッフと協力団体の募集活動（平成29年8～9月）

国際教養学部2，3年3名の学生が中心となり，中国学園大学・中国短期大学の学生約100名に対して，CI制作のボランティア募集を行ったが共感者が国際教養学部1年生の学生1名のみであった。ボランティアスタッフの不足を補うため，学内だけでなく，学外でもボランティアスタッフを募集し，岡山市内の専門学校2校，スタッフの母校などの高校3校（岡山市2校，玉野市1校）に協力を呼びかた【写真3参照】。結果，クリスマスイベントに対して，専門学校1校，高校3校がボランティア参加することになった。また，平成29年9月より，本学に留学中であった高苑科技大学の留学生3名がイルミネーション及びイベントスタッフとして加わった。



写真3 専門学校へ協力依頼

(3) CIとCE企画制作（平成29年9月－11月）

学生視点でのイルミネーションとするため、教員は会議には基本参加せず、学生同士で週1回のペースでCIとCEの企画会議を行った。CIとCEとも、コンセプトを「愛」とし、ハートのイルミネーションなどを制作した。また、LEDライト使用し、輝きを増すためにペットボトルを利用しイルミネーション制作するなど学生たちでアイデアを絞った。11月上旬から、オブジェやイルミネーション制作を行い、商店街店舗の閉店後（19時以降）に取付け作業を行った。時に、制作活動は、深夜まで続くこともあった。また、チラシ制作やラジオにてイベントの宣伝を行った【写真4・5・6参照】。



写真4・5・6 学生によるイルミネーション制作

(4) イルミネーション点灯式（平成29年12月3日）

T社会長、中国学園大学学長・教員、商店街青年部長など約20名で、約4,000個のLEDとペットボトル500本を利用したイルミネーションの点灯式を行った【写真7・8参照】。



写真7 点灯式



写真8 ペットボトルイルミネーション

(6) クリスマスイベント実施（平成29年12月23日）

大学生・専門学校生・高校生・留学生約40名がイベントスタッフとして参加協力し行われた。出店した、高校・専門学校の販売商品も全て完売、本学が用意した280個の福引きも、イベント開始から3時間で終了した【写真9・10参照】。





写真9・10 学生によるクリスマスイベント

(7)「大学生まちづくりチャレンジ事業」活動報告会
(平成30年2月14日)

岡山市主催にて、7大学12団体にて本プロジェクトの活動報告会が開催され、活動報告を行った【写真11・12参照】。



写真11・12 最終活動発表会

4. アンケート結果と考察

上記の「CIとCE」での教育効果を検証するため、クリスマスイベント当日に「表町商店街(紙屋町商店街)イベントへのアンケート(スタッフ用)としてアンケート調査

を実施した。
アンケートへの質問と回答を紹介し、考察を加えたい。

4. 1 クリスマスイベントへのアンケート(スタッフ用)

表3 イベントボランティアの属性

質問項目	回答項目	人数	割合 (%)
性別	男性	8	31%
	女性	18	69%
年齢	10代	14	54%
	20代	10	38%
	30代	1	4 %
	40代	1	4 %
居住	岡山市	14	56%
	倉敷市	4	16%
	玉野市	4	16%
	その他	3	12%
職業等	高校生	12	48%
	大学生	4	16%
	専門学校生	8	32%
	高校教員	1	4 %
	その他	0	0 %

表4. 表町商店街にどれくらいの頻度で行っていますか？

回答項目	人数	割合 (%)
毎日	0	0 %
週に1日程度	1	4 %
月に1日程度	6	23%
半年に1回	3	12%
年に1回	15	58%
行かない	1	4 %

表4より、表町商店街への頻度として、「半年に1回」「年に1回」「行かない」と回答した人が約74%となっており、若者の表町商店街離れが考えられる。一方、月1日以上表町商店街を訪れる若者が約27%いることも分かった。

表5. 今回のイベントの参加動機を教えてください。

(複数回答あり)

回答項目	人数	割合(%)
先生に言われたから	2	5%
授業の一環として	8	19%
まちづくりに興味があった	9	21%
楽しそうだから	9	21%
友達が参加するから	3	7%
取り組みに関心をもったから	11	26%

表5より、約25%が「先生から言われたから」「授業の一環」と回答しており、自主性でなく、やらされた感のある学生・生徒も参加者もいた。しかしながら、「まちづくりに興味があった」「楽しそうだから」「取り組みに関心をもったから」が全回答の7割を占め、自らの意思で参加したことが理解できる。

表6. 普段どちらで買い物をされていますか？

(複数回答あり)

回答項目	人数	割合(%)
表町商店街	0	0%
岡山駅近辺(イオン岡山など)	24	63%
岡山駅地下(サンステ)	0	0%
岡山市外 (三井アウトレットパークなど)	10	26%
県外	1	3%
インターネット	3	8%

買い物の状況に関しては、表町商店街で買い物をを行うと回答した人が0人となっており、回答者である若者(学生・生徒)と表町商店街の販売商品のギャップが考えられる。

表7. 今回のイベント、取り組みについてどう思いますか？

回答項目	人数	割合(%)
大変良かった	16	62%
良かった	9	35%
普通	1	4%
参加しなければよかった	0	0%
特に無し	0	0%

表8. またこのようなイベントに参加したいと思いますか？

回答項目	人数	割合(%)
ぜひ参加したい	16	62%
参加したい	9	35%
どうも思わない	1	4%
参加したくない	0	0%
絶対に参加したくない	0	0%

表7と表8からも分かるように、イベントへの取り組みについてボランティアとして参加したほとんどの学生・生徒が参加して「大変良かった」「良かった」と回答し、また、同様のイベントがあれば「参加したい」としている。

「取り組みに共感し参加した人」、「まちづくりに興味があり参加した人」など自主的に参加した人だけでなく、「授業の一環として参加した人」など半ば強制的に参加した人にとっても、満足度が高いイベントであったと考えられる。

4.3 紙屋町商店主への本事業についてアンケート(スタッフ用)

本プロジェクトでは、プロジェクトリーダーとして活動しました。このような大舞台でのリーダーは初めてで、苦勞も多く大変だった面がありました。しかし、参加した学生スタッフや先生の支えがあり、無事にプロジェクトを終えられた充実感と学生時代にしかできない経験に強い喜びを感じています。この経験は必ず、卒業後に生きると確信しています。今後は、もっと規模を広げ、外国人旅行者をターゲットとした取り組みや、実際の課題解決を行う楽しさと遣り甲斐について、後輩に伝えられるように努めたいです。(国際教養学部3年N君)

商店街でのフィールドワークは大変楽しく、勉強になりました。他学校、高校生など学外の方との交流は想い出も含め素晴らしい経験となりました。特に、T社会長や、表町商店街の方々と企画などを相談することで、視野が広がり自分の世界観が変わりました。このプロジェクトを通じて学べたことは、思考力と責任感だと考えます。しっかりと考え、そして、プロジェクトメンバーのためにも責任を持って行動することの大切さを学べました。反省すべき点も多々あり、次年度に改善し大きく

成長したいと思いました。(国際教養学部2年生TK君)

今回のプロジェクトに携わり色々なことを学びました。特に、勉強になったのは企画力です。まず何をするのか、何をすれば喜ばれ、盛り上がるかなど知恵を出し合いました。当初、企画会議に慣れておらず、スピード面で反省することがありました。一方で、皆で意見を出し合い作り上げる楽しさ、学生だけでなくF会長、商店街の方へ提案をし、企画を認めてもらうことでの喜びを実感しました。プロジェクトのメンバーだけでなく、商店街の皆さんなど意見集約と合意形成の難しさも勉強になりました。商店街は一回のイベントだけで活性化化するとは思いませんが、1日だけでも多くの若者が一体となって取り組めたことを嬉しく思っています。(中国学園大学 国際教養学部2年TT君)

5. お わ り に

多くの商店街が、社会動向、技術革新、店舗の大型化など外部環境の変化により、経営環境は厳しさを増している。今回、岡山市の補助金事業である「平成29年度大学生まちづくりチャレンジ事業」を活用し、表町商店街に本社を置くT社会長の要望であった課題（若者を商店街に呼び込む）に対して、学生たちの自主性と発想を重視したPBLで行った。

課題解決の結果として、約40名の学生・生徒がボランティアスタッフとして参加し、イルミネーション期間中は、若者がSNSで写真を投稿するなど一定の成果があった。さらに、PBL終了後の紙屋町商店街店主へのアンケート調査によれば、次年度もCI・CE実施を希望するが約90%だった。これらの結果を考えると、12月3日～24日の短期間ではあるが、F会長が望んだ、PBLの課題であった「表町商店街に、若者たちを呼び込む」ことの課題解決と、本プロジェクトが微力ながら地域及び商店街活性化の一助になったと考えられる。

また、教育面においても、イルミネーションによる町づくり体験、物販による商品販売体験、店主との企画会議など学内では体験できない多くの学びがあった。とくに、店主との打合せや、母校に対してのボランティアの協力要請、イベント企画においては、学生の主体的

な行動が見受けられた。

今回、リーダーを務めた学生N（3年生）は、入学直後から、在学期間中での地域活性化の取組みと研究を希望していた。今回、学生Nは、店主へのヒアリングや打合せを通じて、実際に商店街の抱えている課題に触れることで机上では修学できない、「学び」「気づき」があった。この学生は、卒業研究として、継続的に「表町商店街の活性化施策」について調査研究を行うことを要望しており、本プロジェクトがさらなる深い学びの追求へと繋がったことを確信している。

最後に、常日頃から、学生に対しては、「百聞は一見に如かず」の原則どおり、常に自らその場に赴き、「現場」、「現実」、「現状」を知ることの大切さと必要性を指導してきた。文部科学省によれば、今後の学校教育・職業教育の在り方の中で、『「地域の人材は地域で養成する」という観点に立ち、地域の学校や産業界、関係機関等の密接な連携のもとに実施することが重要』【10】としている。本プロジェクトに携わった学生・生徒たちが地域に愛着を持ち、将来、地域活性化のリーダーとして育っていくことに期待し、今後も、地域の産業界と連携し、フィールドワークや地域が抱える課題解決のPBLを通じ、学生のキャリア形成の持続的支援に努めていきたい。

謝辞

本研究は平成29年度大学生まちづくりチャレンジ事業補助金(岡山市)事業である。

6. 引 用 文 献

- [1] 藤岡里圭,「高度成長期における百貨店の高級化と特選ブランドの役割」, 経済論叢, 第187巻, 第3号, 2013年12,
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/217800/1/kronso_187_3_95.pdf, 2018.3.22取得。
- [2] 国土交通省,「中心市街地活性化のまちづくりーコンパクトなまちづくりを目指してー」,
<http://www.mlit.go.jp/crd/index/outline/index.html>, 2018.3.22取得。
- [3] 中小企業庁,「第2部 中小企業・小規模事業者

が直面する経済・社会構造の変化」

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H26/h26/html/b2_2_1_4.html, 2018.3.22取得。

- [4] 辻井啓作 (2013),『なぜ繁栄している商店街は1%しかないのか』, (株)阪急コミュニケーションズ
- [5] 岡山市, 「商店街等調査報告書 (概要版)」, <http://www.city.okayama.jp/contents/000252784.pdf>, 2018.3.22取得。
- [6] 橋田哲仁, 寺本淳平他: 「表町商店街の現状と活性化への取り組みについて」, 愛媛地区共同リポジトリ
- [7] 表町商店街WEBサイト, http://omotecho.or.jp/?page_id=2, 2018.3.22取得。
- [8] 毎日新聞地方版2017年1月11日, コーヒーで町を熱く北区・表町商店街に洲鎌さん「心込め作るのが幸せ」, <https://mainichi.jp/articles/20170111/ddl/k33/040/446000c>, 2018.3.22取得。
- [9] 岡山市商店街等調査事業実行委員会, 商店街等調査報告書, 2014年3月, <http://www.city.okayama.jp/contents/000190796.pdf>, 2018.3.22取得。
- [10] 文部科学省「第6章 キャリア教育・職業教育の充実のための様々な連携の在り方」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1300251.htm, 2016.3.31取得。

